

# 図書館員がすすめる 子どもの本

—赤ちゃんから小学生までの155冊—

群馬県内の公共図書館で児童サービスを担当する職員が、子どもたちにすすめる本を選びました。「読み聞かせにはどんな本を選んだらいいの?」「子どもにどんな本をすすめたらいいの?」家庭や学校・図書館などで迷ったとき、参考にさせていただければ幸いです。



# 赤ちゃん (0・1・2歳児)



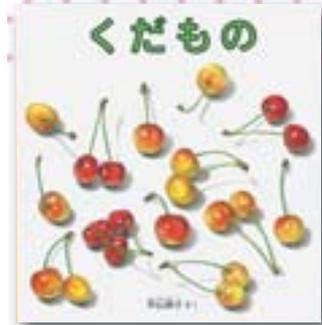
『いないいないばあ』  
松谷みよ子/文 瀬川康男/画  
童心社 1967

ねこが、くまが、ねずみが、隠れてはまた出てくる。その喜びが、赤ちゃんの心をおどらせます。この絵本で覚えた「いないいないばあ」の遊びを赤ちゃんと一緒に楽しんでください。きっと幸せな気持ちになれます。



『おつきさまこんばんは』  
林明子/さく  
福音館書店 1986

夜になって、屋根の上にお月さまがこんばんは。雲さんがお月さまをかくしてしまっても、やがてにっこり笑顔であられます。雲さんもお月さまとおはなししてたのね。大人もやさしい気持ちになれます。



『くだもの』  
平山和子/さく  
福音館書店 1981

すいか、もも、ぶどう…。赤ちゃんにもなじみのあるくだものが、皮をむかれ切り分けられ「さあ どうぞ」と差し出されます。おいしそうなくだものに思わず赤ちゃんの手も伸びて、「ごっこ遊び」が始まります。



『くっついた』  
三浦太郎/作・絵  
こぐま社 2005

金魚やアヒルたちが、鼻と鼻、ほっぺとほっぺなどいろいろな形でくっつく微笑ましい赤ちゃん絵本です。最後は赤ちゃんとお母さん、そしてお父さんが一緒にくっつきます。赤ちゃんと一緒に幸せな気持ちになれます。



『じゃあじゃあ ぴりぴり』  
まっいのりこ/作・絵  
偕成社 1983

「じどうしゃ ぶーぶーぶーぶー、いぬ わんわんわんわん」シンプルで明解な絵とその名前、そしてそれらが発する音で構成された小さな絵本。リズムカルなことばのくり返しは、赤ちゃんが初めて接する絵本に最適です。

こんな本も  
あります

- 『うんちがぼとん』 アロナ・フランケル/え・ぶん さくまゆみこ/やく アリス館 1984
- 『おにぎり』 平山英三/ぶん 平山和子/え 福音館書店 1992
- 『おひさま あはは』 前川かずお/作・絵 こぐま社 1989
- 『がたん ごとん がたん ごとん』 安西水丸/さく 福音館書店 1987
- 『きゅつ きゅつ きゅつ』 林明子/さく 福音館書店 1986
- 『こちよばこ こちよばこ』 中川ひろたか/文 村上康成/絵 ひかりのくに 2005
- 『ことば』 まさごひであき/え ミキハウス 1992
- 『ころころころ』 元永定正/さく 福音館書店 1984



『しろくまちゃんのほっとけーき』  
わかやまけん/え 森比左志・わだよしおみ/著  
こぐま社 1972

赤ちゃんの大好きな擬音がいっぱい絵本です。“どろどろ”、“ぶつぶつ”とホットケーキが焼けていく様子はとてもおいしそう。少し大きくなって、お料理に興味を持つようになった時、違った楽しみ方もできます。



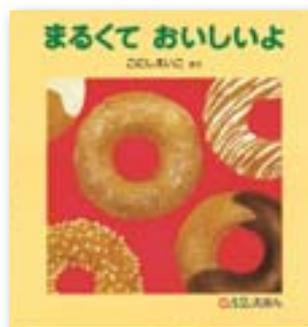
『どうぶつのおかあさん』  
小森厚/ぶん 藪内正幸/え  
福音館書店 1981

おかあさんねこは、子どもをくわえて運びます。おかあさんライオン、おかあさんざるもやさしく子どもを運びます。動物の親子が移動する時の姿から、母親の愛情と温かさが伝わってくる絵本です。



『ぴょーん』  
まつおかたつひで/作・絵  
ポプラ社 2000

いろいろな動物たちが、ぴょーんととびはねる躍動感あふれる絵本。動物たちの表情や姿がとても生き生きとしていて、子どもたちもいっしょにぴょーんととびはねたくなるような楽しさにあふれています。



『まるくておいしいよ』  
こにしえいこ/さく  
福音館書店 1999

「これ なあに。」の問いかけと赤や黄色の丸が描かれたページをめくると、子どもたちが大好きなビスケットやクッキー、のりまきなど、まるくておいしいものがたくさん登場します。親子で当てっこをして楽しめる絵本です。



『もこもこもこ』  
たにかわしゅんたろう/さく もとながさだまさ/え  
文研出版 1977

色彩豊かで、単純なことばと絵の繰り返しで想像力をかきたてます。また、音の響きとテンポの良いリズム、めくるたびに变化する絵が、子どもを引き付けます。読み方によって、いろいろな表情を見せてくれる不思議で楽しい絵本です。

こんな本も  
あります

- 『たたくとぼん』 寺村輝夫/さく 和歌山静子/え あかね書房 2003
- 『でてこいでてこい』 はやしあきこ/さく 福音館書店 1998
- 『どうぶつのおやこ』 藪内正幸/画 福音館書店 1966
- 『どんどこももんちゃん』 とよたかずひこ/さく・え 童心社 2001
- 『ねんね』 さえぐさひろこ/文 アリス館 2004
- 『ぶーぶー じどうしゃ』 山本忠敬/さく 福音館書店 1998
- 『松谷みよ子 あかちゃんのわらべうた 1～10』 松谷みよ子/文 偕成社 1977～1991

# 幼児



## 『おおきなかぶ』

A・トルストイ/再話 内田莉莎子/訳 佐藤忠良/画  
福音館書店 1966

「うんとこしょ どっこいしょ」まだまだかぶはぬけません。くり返されるかけ声に、いつしか子どもの声も混じっています。1つのことをみんなで成し遂げる大切さや、喜びを、体いっぱいを感じられるお話です。



## 『からすのパン屋さん』

かこさとし/絵と文  
偕成社 1973

からすのパン屋さんは、おもしろい形のパンが評判です。からすの家族が力を合わせパンを作る様子はほのぼのとして、温かい気持ちになります。ページいっぱいになんだパンはどれもおいしそうで、見ているだけで楽しくなります。



## 『ちびゴリラのちびちび』

ルース・ボーンスタイン/さく いわたみみ/やく  
ほるぷ出版 1978

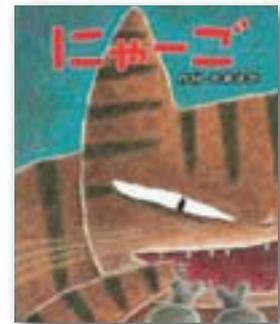
森のみんなに愛されるゴリラのちびちび。そんなある日、なにかが…。ちびちびの変化の兆しにドキドキし、そしてほっと安堵します。子どもにとって「無条件で自分が肯定されることの喜び」が伝わってくる絵本です。



## 『てぶくろ』

エウゲーニー・M・ラチョフ/え うちだりさこ/やく  
福音館書店 1965

おじいさんが落とした手袋にねずみ、かえる、うさぎ、きつね、おおかみ…次々と動物がやってきてもぐり込みます。すっかり家のようになってしまった手袋。次は誰が来るのかとハラハラしながら引き込まれるロシアの民話絵本です。



## 『にゃーご』

宮西達也/作・絵  
鈴木出版 1997

「この顔を見たら、すぐに逃げなさい。」という先生の話も聞かず、猫の怖さを知らない子ねずみ3匹のお話です。苦手な相手でも心が通じ合えば友だちになれることを教えてくれます。何度も読んでとねだられる絵本です。

こんな本も  
あります

『14ひきのシリーズ』(既刊12冊) いわむらかずお/さく 童心社 1983～

『あおくとときいろちゃん』 レオ・レオーニ/作 藤田圭雄/訳 至光社 1967

『おおきくなるっていうことは』 中川ひろたか/文 村上康成/絵 童心社 1999

『おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん』 長谷川義史/作 B L出版 2000

『おなら』 長新太/さく 福音館書店 1983

『くまくんの絵本シリーズ』(全9冊) わたなべしげお/ぶん おおともやすお/え 福音館書店 1980～1986

『ぐりとぐら』 なかがわりえこ/文 おおむらゆりこ/絵 福音館書店 1967

『このはなだれの?』 内山巖/写真 堀浩/監修 ひさかたチャイルド 2006



### 『ねずみくんのチョコッキ』

なかえよしを/作 上野紀子/絵  
ポプラ社 1974

おかあさんが編んでくれたねずみくんの赤いチョコッキ。そこへ動物たちが「ちょっと着せてよ」と集まってきました。さてチョコッキはどうなるのでしょうか。読んであげるほうも、ついほえんでしまいそうになるお話です。



### 『はらぺこあおむし』

エリック=カール/さく もりひさし/やく  
偕成社 1976

お月様が見つけた小さなたまごは、きれいなちょうに…ももこおなかとユーモラスな顔のお出迎えです。はらぺこのあおむしは食べ物を探し始めます。穴の開いたしかけ、成長していく楽しさや不思議さも味わえます。



### 『ぼく、だんごむし』

得田之久/ぶん たかはしきよし/え  
福音館書店 2005

だんごむしは身近な生き物ですが、生態はよく知られていません。この絵本はだんごむしが読み手に語りかける形式で、生態をわかりやすく描いています。紙の質感を生かした、温かみのある貼り絵風の科学絵本です。



### 『やさいのおなか』

きうちかつ/さく・え  
福音館書店 1997

台所でおなじみの野菜たちの断面が、つぎからつぎへとあらわれます。「これなあに？」子どもたちの元気な声がかえってきますよ。おはなし会の最初に読むと、子どもがリラックスし、その後のお話に集中できます。



### 『わたしのワンピース』

にしまさかやこ/えとぶん  
こぐま社 1969

白いワンピースを着たうさぎが主人公。「ラランロロロン…」のリズムにのって、お花畑を散歩するとワンピースが花もように、雨が降ったら水玉に。読んでいるだけで、心がはずんでくるような楽しい絵本です。

こんな本も  
あります

- 『しょうたとなつとう』 星川ひろ子・星川 治雄/写真・文 小泉 武夫/原案・監修 ポプラ社 2003
- 『ぞうくんのさんぽ』 なかのひろたか/さく・え なかのまさたか/レタリング 福音館書店 1977
- 『たまごのあかちゃん』 かんざわとしこ/ぶん やぎゆうげんいちろう/え 福音館書店 1993
- 『でんしゃでいこう でんしゃでかえろう』 間瀬なおかた/作・絵 ひさかたチャイルド 2002
- 『はたらくくるま』 バイロン・パートン/作 あかきかずまさ/訳 インターコミュニケーションズ 1999
- 『はなをくくん』 ルース・クラウス/ぶん マーク・シーモント/え きじまはじめ/やく 福音館書店 1967
- 『ももたろう』 まついただし/ぶん あかばすえきち/え 福音館書店 1965

# 小学校低学年

## ●読み聞かせに



### 『エルマーのぼうけん』

ルース・スタイルス・ガネット／さく  
ルース・クリスマン・ガネット／え わたなべしげお／やく  
福音館書店 1963

動物島に捕らえられている竜の子を少年エルマーが救出に行く、知恵と勇気にあふれた冒険物語です。次々と起こる奇想天外な出来事にハラハラドキドキ。空想と冒険心を奮立たせ子どもたちを物語の世界へ引き込みます。



### 『おいしいのぼうけん』

ふるたたるひ・たばたせいいち／さく  
童心社 1974

さくら保育園でかわいいものは、悪い子が入られる押し入れとねずみばあさん。ある日、押し入れに入れられたさとしとあきは、ねずみばあさんのいる不思議な世界へと迷い込みます。さあ、ふたりの冒険の始まりです。



### 『じごくのそうべえ』

田島征彦／作  
童心社 1978

とざい とうざい。軽業師のそうべえは綱渡りの最中に失敗し、閻魔様の気まぐれで地獄へ行くはめに。途中、知り合った仲間とともに地獄で大暴れ。ついには…。力強い絵と関西弁が楽しく、子どもも大笑いの1冊。



### 『だんごどっこいしょ』

大川悦生／作 長谷川知子／絵  
ポプラ社 1975

「ぐつ」は、ばあちゃんに「だんご」を作ってもらおうと「だんご だんご」と唱えながら帰ったのですが…。大事なことを忘れまいとするぐつの気持ちが民話の語り口とモノクロの絵で描かれ、子どもたちをお話の世界へ引き込みます。



### 『ともだちや』

内田麟太郎／作 降矢 なな／絵  
偕成社 1998

キツネは「ともだちや」を始めました。1時間100円で…。小学校に入って人間関係が広がる時に読んであげたい絵本です。ともだちっていいなと思えます。シリーズもあり、仲良しのキツネとオオカミが大活躍しています。

こんな本も  
あります

- 『いたずらきかんしゃ ちゅうちゅう』 バージニア・リー・パートン／ぶん・え むらおかはなこ／やく 福音館書店 1961  
『ウラバン・オコサ かずあそび』 谷川晃一／作 童心社 1999  
『おつきょちゃんとかっぱ』 長谷川摂子／文 降矢奈々／絵 福音館書店 1997  
『くまのコールテンくん』 ドン＝フリーマン／さく まつおかきょうこ／やく 偕成社 1975  
『こんとあき』 林明子／さく 福音館書店 1989  
『三びきのやぎのがらがらどん』 マーシャ・ブラウン／え せたていじ／やく 福音館書店 1965  
『しずくのぼうけん』 マリア・テルリコフスカ／さく ポフダン・ブテンコ／え うちだりさこ／やく 福音館書店 1969  
『すてきな三にんぐみ』 トミー＝アンゲラー／さく いまえよしとも／やく 偕成社 1969  
『ちいさいおうち』 バージニア・リー・パートン／ぶんとえ いいいももこ／やく 岩波書店 1965  
『番ねずみのヤカちゃん』 リチャード・ウィルバー／さく 大社 玲子／え 松岡 享子／やく 福音館書店 1992

## ●自分で読む



### 『かいじゅうたちのいるところ』

モーリス・センダック／さく じんぐうてるお／やく  
富山房 1975

マックスがいたずらの罰で放りこまれた寝室は、いつのまにか森と海に変わります。そこから船出したマックスは、かいじゅうたちのいる島にたどり着き、王様になって大暴れでも…。理屈抜きにおもしろいお話です。



### 『しゅくだい』

宗正美子／原案 いもとようこ／文・絵  
岩崎書店 2003

めえこ先生の今日の宿題は「だっこ」。それを聞いた子どもたちはうれしいやら、照れくさいやら…。家族に抱きしめられた時の子どもの幸せそうな顔が目に見え、心がやさしくなる、愛情にあふれた絵本です。



### 『スイミー ちいさなかしこいさかなのはなし』

レオ＝レオニ／作 谷川俊太郎／訳  
好学社 1979

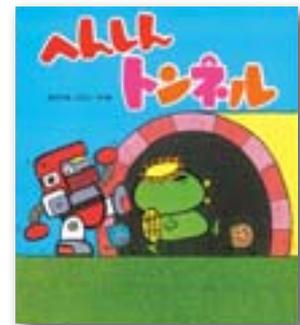
仲間を失い、ひとりで海を泳ぎ回っていた黒い魚スイミーは、小さな赤い魚の群れに出会い、彼らが大きな魚に食べられない方法を考えます。自分を見つめ、社会と向き合う芸術家レオ＝レオニの思想を表しているといわれる絵本です。



### 『となりのせきのますだくん』

武田美穂／作・絵  
ポプラ社 1991

“隣の席の子は、かいじゅう?!” みほちゃんには、いじわるなますだくんがかいじゅうにしか見えません。ある日、お気に入りのエンピツを折られて思わず消しゴムを投げつけてしまって…。二人の心それぞれに寄り添える絵本です。



### 『へんしんトンネル』

あきやまただし／作・絵  
金の星社 2002

くぐると変身する不思議なトンネルのお話。かっぱが「かっぱかっぱかっぱ…」とつぶやきながらトンネルに入ると、ばかっぱかっぱかっぱと元気な馬に変身して出てきます。たくさんの変身に大笑いできる言葉遊び絵本です。

こんな本も  
あります

- 『11びきのねこ』 馬場のぼる／著 こぐま社 1967
- 『おおきな おおきな おいも』 赤羽末吉／さく・え 福音館書店 1972
- 『おさるはおさる』 いたうひろし／作・絵 講談社 1991
- 『角野栄子のちいさなどうわたち』(全6巻) 角野栄子／作 ポプラ社 2007
- 『きいろいばけつ』 もりやまみやこ／作 つちだよしはる／絵 あかね書房 1985
- 『キャベツくん』 長 新太／文・絵 文研出版 1980
- 『ことばあそびうた』 谷川俊太郎／詩 瀬川康男／絵 福音館書店 1973
- 『これはのみのびこ』 谷川俊太郎／作 和田誠／絵 サンリード 1979
- 『どうぞのいす』 香山美子／作 柿本幸造／絵 ひさかたチャイルド 1981
- 『はじめてのキャンプ』 林明子／さく・え 福音館書店 1984
- 『ふたりはともだち』 アーノルド・ローベル／作 三木卓／訳 文化出版局 1972
- 『めっきらもっきらどおんどん』 長谷川摂子／作 ふりやなな／画 福音館書店 1990
- 『ゆうたはともだち』 きたやまようこ／作 あかね書房 1988
- 『アキラからみると』 桑原 隆一／文 栗林 慧／写真 福音館書店 2004
- 『どこにいるかわかる? アジア・太平洋の子どもたちのたのしい一日』 ユネスコ・アジア文化センター／編 松岡享子／訳 こぐま社 2006

# 小学校中学年

## ●読み聞かせに



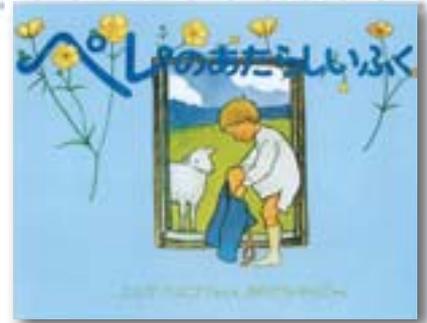
『あのとすきになったよ』  
薫くみこ/さく 飯野和好/え  
教育画劇 1998

おしっこもらしてばかりの“しっこさん”。いつも怒った顔。わたしは「しっこさん」とは呼ばないけれど…。2人の少女が遊んで、ケンカして…。あれ？いつ仲良くなったんだっけ？遠目にも目立つ絵が読み聞かせ向きです。



『あらしのよるに』  
木村裕一/作 あべ弘士/絵  
講談社 1994

嵐の夜にオオカミとヤギが山小屋で出会い、友だちになるお話。暗闇の中で、互いを仲間と勘違いしたまま交わされる2匹の会話がとても楽しく、そしてハラハラします。心でふれあうことの大切さを教えてくれます。



『ペレのあたらしいふく』  
エルサ・バスコフ/さく・え おのでらゆりこ/やく  
福音館書店 1976

ペレという男の子が、周りの人の協力を得て、自分の子羊の毛から新しい青い服を作るまでのお話です。お金さえ出せばすぐに物が手に入る現代の子どもたちに、物づくりの大切さや喜びが、静かに伝わる1冊。



『モチモチの木』  
斎藤隆介/作 滝平二郎/絵  
岩崎書店 1971

おくびょうもので夜中にひとりでトイレにも行けない豆太でしたが、ある夜じさまの具合が悪くなり…。リズムカルな民話的語り口で読み聞かせ向き。本当の勇気や強さは優しさの中にあることが学べる絵本です。



『ものぐさトミー』  
ペーン・デュボア/文・絵 松岡享子/訳  
岩波書店 1977

トミーは電気仕掛けの家に住んでいます。朝起きて、身支度を整え、朝食を食べるまですべて機械がやってくれます。しかし、ある夜、嵐で電線が切れて…。様々な装置と予想外の事態に、子どもたちが大喜びする1冊です。

こんな本も  
あります

- 『いつもちくこのおとこのこージョン・パトリック・ノーマン・マクヘネシー』 ジョン・バーニガム/さく たにかわしゅんたろう/やく あかね書房 1988  
『かっくん どうしてボクだけしかくいの?』 クリスチャン・メルベユ/文 ジョース・ゴフィン/絵 乙武洋匡/訳 講談社 2001  
『しあわせの石のスープ』 ジョン・J・ミューズ/さく・え 三木卓/やく フレーベル館 2005  
『ゼラルダと人喰い鬼』 トミー・ウンゲラー/【作】 たむらりゅういち・あそうくみ/訳 評論社 1977  
『ちゃんとたべなさい』 ケス・グレイ/文 ニック・シャラット/絵 よしがみきょうた/やく 小峰書店 2002  
『てん』 ピーター・レイノルズ/作 谷川俊太郎/訳 あすなる書房 2004  
『はなのあなのはなし』 やぎゆうげんいちろう/さく 福音館書店 1982  
『まゆとおに 一やまんばのむすめまゆのはなし』 富安陽子/文 降矢なな/絵 福音館書店 2004  
『もったいないばあさん』 真珠まりこ/作・絵 講談社 2004  
『落語絵本 まんじゅうこわい』 川端誠/【作】 クレヨンハウス 1996

## ●自分で読む



### 『きつねのかぎや』(シリーズ)

三田村信行／作 夏目尚吾／絵  
あかね書房 2002～

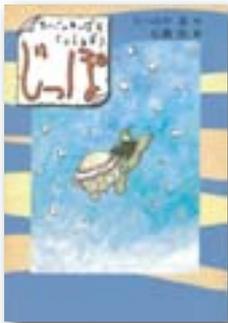
キツネのかぎやは、どんなかぎでもあける自信をもっています。それがあつた日、とんでもない事件にまきこまれてしまいます。キツネのかぎやがどうなっていくのか推理しながら読んでいくととてもおもしろいシリーズです。



### 『実物大 恐竜図鑑』

デヴィッド・ベルゲン／著 真鍋真／日本語版監修 藤田千枝／訳  
小峰書店 2006

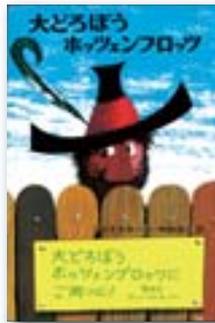
実物大で描かれる恐竜の顔や爪は、恐ろしいほど迫力があり、想像力をかきたててくれます。他にもその時代の地球や植物がわかりやすく説明されていて、恐竜時代を理解しながら楽しめる本です。



### 『じっぼ』

たつみや章／作 広瀬弦／画  
あかね書房 1994

台風の日、太郎はカッパの子どもを拾いました。じっぼと名付けたカッパは、とても食いしん坊で少しだけ言葉を話し、手のかかる弟のようです。でも、じっぼを学校へ連れて行ったことで大騒ぎになってしまいます。



### 『おばあさんのコーヒー』

オトフリート＝プロイスラー／作 中村浩三／訳  
偕成社 1966

おばあさんのコーヒー挽きを奪った大泥棒。取り戻そうと後を追うカスパールと親友ゼツベル。少年たちと大泥棒の知恵比べが圧巻。ぐいぐいと話に引き込まれます。ホッツェンプロッツのどこか憎めないキャラクターも魅力！



### 『ブンダバー』(シリーズ)

くぼしまりお／作 佐竹美保／絵  
ポプラ社 2001～

人間のことばを話す愉快な黒猫ブンダバー。親友のももや心やさしい人たちと出会い、その周りにはいつも笑いがいっぱい。こんな愉快な猫が近くにいたら…という空想の世界が思いきり楽しめます。

こんな本も  
あります

『いえてででんしゃ』 あさのあつこ／作 佐藤真紀子／絵 新日本出版社 2000

『教室はまちがうところだ』 蒔田晋治／作 長谷川知子／絵 子どもの未来社 2004

『きょうはなんのひ?』 瀬田貞二／作 林明子／絵 福音館書店 1979

『くまの子ウーフ』 神沢利子／作 井上洋介／絵 ポプラ社 1969

『車のいろは空のいろ』 あまきみこ／作 北田卓史／絵 ポプラ社 1968

『ごきげんなすてご』 いたうひろし／さく 徳間書店 1995

『サンタクロースっているんでしょうか [改装版]』 [フランスス=P=チャーチ／著] 中村妙子／訳 東逸子／画 偕成社 1986

『スーホの白い馬』 大塚勇三／再話 赤羽末吉／画 福音館書店 1967

『みしのたくかにと』 松岡享子／作 大社玲子／絵 こくま社 1998

『ルドルフとイッパイアッテナ』 斎藤洋／作 杉浦範茂／絵 講談社 1987

『わたしたちのトビアス』 セシリア＝スベドベリ／編 山内 清子／訳 偕成社 1978

『地面の下のいきもの』 松岡達英／え 大野正男／ぶん 福音館書店 1988

『ずら～りカエルならべてみると…』 松橋利光／しゃしん 高岡昌江／ぶん アリス館 2002

『世界あちこち ゆかいな家めぐり』 小松義夫／文・写真 西山晶／絵 福音館書店 1997

『どうぶつのあしがたずかん』 加藤由子／文 ヒサクニヒコ／絵 中川志郎／監修 岩崎書店 1989

# 小学校高学年

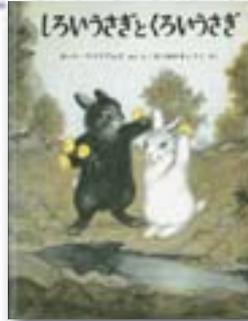
## ●読み聞かせに



### 『おおきな木』

シェル・シルヴァスタイン/さく・エ  
ほんだきんいちろう/やく  
篠崎書林 1976

見返りを求めず、少年に与え続けた木。偉大であり、切なくもあります。親がわが子に注ぐ愛、いつか自分のもとを離れてもなお注ぎ続ける愛を思わせませす。親子ともに感慨深く、しみじみ考えさせられる1冊です。



### 『しろいうさぎとくろいうさぎ』

ガス・ウィリアムズ/ぶん・エ  
まつおかきょうこ/やく  
福音館書店 1965

2羽のウサギをとおして、友だちや家族のことを強く思う、大切に。想いを伝える。そんな温かいメッセージを感じ、同時に送ることができます。子どもたちの心にそっと寄り添う絵本です。



### 『ずーっとずっとだいすきだよ』

ハンス・ウィルヘルム/えとぶん  
久山太市/やく  
評論社 1988

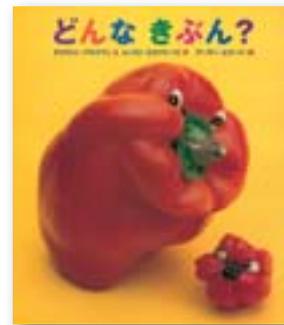
犬のエルフィーが死んだとき、仲良しだった男の子は、悲しいけれどいくらか気持ちが楽でした。なぜなら毎晩エルフィーに「だいすきだよ」と言っていたから…。愛するものに、素直に言葉で伝えることの大切さを教えてくれる絵本です。



### 『としょかんライオン』

ミシェル・ヌードセン/さく ケビン・ホークス/え 福本友美子/やく  
岩崎書店 2007

決まりを守ることはとても大切ですが、時には例外もあります。でもやっぱり決まりを守ることは大切です。本当に大切なことは何かを考えさせられる1冊です。また図書館とはこうでありたいとも思われます。



### 『どんなきぶん?』

サクストン・フライマン&ユースト・エルファーズ/作 アーサー・ピナード/訳  
福音館書店 2001

野菜や果物を顔に見立て、いろいろな気分を表現した写真絵本。感情を認識できる年齢から楽しめます。高学年になると絵本に込められたメッセージを深く読みとったり、実際に自分で作ったり、発展的に活用できる1冊です。

こんな本も  
あります

- 『100万回生きたねこ』 佐野 洋子/作・絵 講談社 1977
- 『ウェズレーの国』 ポール・フライシュマン/作 ケビン・ホークス/絵 千葉茂樹/訳 あすなる書房 1999
- 『かようびのよる』 デヴィッド・ウィズナー/作 当麻 ゆか/訳 徳間書店 2000
- 『3びきのかわいいオオカミ』 ユージーン・トリピザス/文 ヘレン・オクセンバリー/絵 こだまともこ/訳 富山房 1994
- 『バスラの図書館員』 ジャネット・ウィンター/絵と文 長田 弘/訳 晶文社 2006
- 『ほくの村にサーカスがきた』 小林 豊/作・絵 ポプラ社 1996
- 『ほちほちいこか』 マイク=セイラー/さく ロバート=グロスマン/え いまえよしとも/やく 偕成社 1980
- 『ロージーのおさんぽ』 パット・ハッチンス/さく わたなべしげお/やく 偕成社 1975
- 『シロナガスクジラより大きいものっているの?』 ロバート・E・ウェルズ/さく せなあいこ/やく 評論社 1999
- 『たいせつなこと』 マーガレット・ワイズ・ブラウン/さく レナード・ワイズガード/え うちだ ややこ/やく フレーベル館 2001

# ●自分で読む



## 『12歳たちの伝説 1～5』

後藤竜二/作 鈴木びんこ/絵  
新日本出版社 2000～2004

パニック学級にぬいぐるみを付き添いに現れたのは、担任の“ゴリちゃん”。「今日からがすべて」と言って子ども達に向かいます。ユウカ・カオル・パンダ…懸命に人と繋がるうとする子どもたちにいつの間にか引き込まれていきます。



## 『算数の呪い』

ジョン・シェスカ/文 レイン・スミス/絵 青山南/訳  
小峰書店 1999

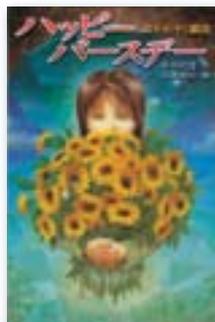
先生が「みなさん、たいていのことは算数の問題として考えられます」と言ったおかげで、翌日の朝から何もかもが算数の問題になってしまいます。ユーモアいっぱいの問題は、大人でも難しいかも!?



## 『チョコレート工場の秘密』

ロアルド・ダール/著 ケンティン・ブレイク/絵  
柳瀬 尚紀/訳 評論社 2005

家が貧しく、いつも腹ペコのチャーリーが一番欲しいのは、チョコレート。ある日の夕刊に、金券を当てた5人の子どもにチョコレート工場の見学とチョコプレゼントの記事が…。さあ、ドキドキワクワクにあふれた秘密の工場へどうぞ!



## 『Happy Birthday 命かがやく瞬間』

青木和雄/作 加藤美紀/画  
金の星社 1997

母親の虐待で声が出なくなり、生まれてこないほうがよかったとまで思ったあすかでしたが、優しい祖父母の元で「いのち」の意味を学びます。そして、あすかの成長に周囲も変わっていきます。そんなあすかの姿に自分を重ね合わせる読者もいるのではないでしょうか。心に残る1冊です。



## 『レモンをお金にかえる法 “経済学入門”の巻』

ルイズ・アームストロング/ぶん ビル・バツ/え  
佐和隆光/やく 河出書房新社 2005

このレモン色の絵本は、レモネードの売店の経営というテーマの中で、多くの経済用語(労働争議や価格戦争、企業合併など)を盛り込んだ、小さな女性起業家のサクセスストーリーです。ムスカイこと抜き経済学入門としてぜひ!

こんな本も  
あります

『カラフル』 森絵都/作 理論社 1998

『木を植えた男』 ジャン・ジオノ/原作 フレデリック・バック/絵 寺岡襄/訳 あすなろ書房 1989

『こそあどの森の物語シリーズ』 岡田淳/作 理論社 1994～

『鹿よ おれの兄弟よ』 神沢利子/作 G・D・パヴリーシン/絵 福音館書店 2004

『つくも神』 伊藤遊/作 岡本順/画 ポプラ社 2004

『天小森教授、宿題ひきうけます』 野村一秋/作 南伸坊/絵 小峰書店 2001

『ひとりていらっしやいー七つの怪談ー』 齊藤洋/作 奥江幸子/絵 偕成社 1994

『百まいのドレス』 エレナー・エステイス/作 石井桃子/訳 ルイス・スロポドキン/絵 岩波書店 2006

『魔女の宅急便』 角野栄子/作 林明子/画 福音館書店 1985

『やまんばん山のモッコたち』 富安陽子/作 降矢奈々/画 福音館書店 1986

『いま地球がたいへん! Q&A60』 国立環境研究所/編 丸善 2005

『宇宙飛行士大図鑑 装備から歴史まで』 PHP研究所/編 PHP研究所 2006

『絵で読む 広島原爆』 那須正幹/文 西村繁男/絵 福音館書店 1995

『きみが微笑む時』 長倉洋海/著 福音館書店 2004

『進化のはなし 地球の生命はどこからきたか』 スティーブ・ジェンキンス/作 佐藤見果夢/訳 評論社 2006



対象年齢はおおよその目安です。絵本を含め本に年齢制限はありません。それぞれの子どもの読書への関心や興味、読書力に合わせ、自由に選んでください。掲載された本は、お近くの図書館や群馬県立図書館で利用できます。

平成20（2008）年3月31日発行

編集：群馬県公共図書館協議会

児童・青少年サービス研究部会

群馬県内市町村立図書館

群馬県立図書館

発行：群馬県立図書館

〒371-0017

群馬県前橋市日吉町1丁目9-1

電話 027-231-3008

FAX 027-235-4196

<http://www.library.pref.gunma.jp/>

---

表紙画像の掲載については出版社の許諾を受けています。